

雨散、
津輕、
沖風、
須磨、
白雪、
松風、
野分、

0358

起案郵紙

大正十三年八月十八日起案

起案者捺印

真

月

日發付

發付掛捺印

發付後起案者捺印

起案郵紙甲

(手) 經理局長

大臣

副官

次官

參事官

艦政本部長

軍務局長

大正十三年九月二十二日

海軍大臣

佐世保鎮守府司令長官宛

除籍艦處分関係件

官房第三九一號

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局、部	受月日	發月日

0359

左記除籍艦艇ハ左ノ件相心得賣却方取計ハレム
右訓令ス

追テ賣却上其經過ヲ(契約書寫ヲ添ヘ)報告スヘシ

一買受人カ船タル状態ニ於テ他人ニ讓渡サントスル場合ハ

其讓受人及用途ヲ明カシ豫メ海軍ノ承認ヲ受ケル

コトヲ條件トスルコト

二砲燐水雷ニ關スル兵器及其部分品ハ豫メ撤去スルカ又

ハ買受人ヲシテ撤去返還セシムルコト

須磨、白雪、松岡、野分、敷

編文社

0360

軍第五五ノ號

供

警

軍務局長

第三十

大正十三年九月三十日

第一師團

塩澤

副官

藤田

田中

九ノ中

田中

田中

佐藤参謀長殿

除務配更分ニ関スル件

首題件、由シ九月三十日官房分ニ送リテ御座

事、事、支那部乱、現状ニ鑑ミ、

一時令相成致、何令指令見送

右伝令申上

此

第二師團

第二師團長

田中

經理局 13.9.20

0361 9-26

大正十三年七月一日起案

起案者 捺印

日發付

發付後起 捺印

案者捺印

船本總 13.7.11

本總 13.7.18

總務局 13.7.3

官房大 13.7.25

(主)

大臣

次官

經理局

艦政本部

第四部

總務部

次長

第一課

第二課
第三課
第一課

仰裁

除籍船處分：開示件

大記艦船ハ既ニ除籍處分檢シテ有之其利用ニ関シ

官房第三七九號

局部	受月	日	發月	日
官房	受月	日	發月	日
軍務	受月	日	發月	日
人事	受月	日	發月	日
艦政	受月	日	發月	日
橋樑	受月	日	發月	日
醫務	受月	日	發月	日
經理	受月	日	發月	日
法務	受月	日	發月	日
技本	受月	日	發月	日
造兵	受月	日	發月	日
教育	受月	日	發月	日
臨建	受月	日	發月	日
水路	受月	日	發月	日
軍令	受月	日	發月	日

0362

確調査致云處 何と云々ノ経費ヲ投シ相背修理又改良
スルニ非カハ使用ニ難ク又其ノ價値ニ僅クシテ結局不経済
ト有リ云々ノ執シハ民間ニ據下ルニトシテ何計ノ然カ
右仰高裁

0363
0364

カ、白雪、松凡、郵便、霞

角 徳 一

又以下条件就テ政院ニ要求スル
ノ宿舎トシテ庶民ニ要求スル三島ノ施設代々ノ修繕ノ必要ニ付テ

伊島 此島ノ町ノ町長代官トシテ修繕ノ日守制ナリト云々

一 華在者後任早第三國ノ所轄ノ屬地ニ付テ
二 島嶼及其部分系長修繕ノ事ヲテ即ニ修繕ス

何に多々ノ経費ヲ投シ相背修理又改修
難ク又其ノ價値ニ僅クシテ詰局ノ不経痛
氏間ニ據下ルニトシテ可計ノ如ク

16-4-1
沖島

12-4-1
須磨

白雪

松凡

郵船

霞

對支關係アリ時機又下条件就テ政究ヲ要ス

東京沖ノ燈台及水先人宿舍トテ廢航ヲ要求ス三崎ノ防波堤代リテ廢航ヲ要求シ居テリ

参考

沖島

沖島町ヲ以テ代名トシテ總務省ノ日誌ナリトシテ拂下シ居リ

日本海鐵道會社
橋本事務所

一華在倉庫ノ後果第三國ノ所有トシテ之ヲ力カサズ
又其ノ及甚初ヨリ其ノ概況ノ如クテ其ノ事ヲ

0363
0364

紙 郵 案 起

大正十三年九月

日起案

起案者 捺印

九月二十一日

發付

發付掛 捺印

發付後起 捺印

案者捺印

九月二十一日

大臣

副官

藤田

洪

次官

參事官

政務次官

第四部

總務部第三課

總務部第二課

總務部第一課

參與

第一課長

第二課長

第三課長

第四課長

第五課長

第六課長

第七課長

第八課長

第九課長

第十課長

第十一課長

第十二課長

第十三課長

第十四課長

第十五課長

大正十三年九月二十一日

大臣

佐在保海兵國所屬 傳習船沖島ヲ廣航處分ノ上

號番

官房第九〇號

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
												九月二十一日	九月二十一日	受月日發月日

經理局 13913 9

0365

古川合々
賣却言
此計ノハシ但
古川却
固シテ
別ニ措キ
ス

終

續文社印

0366

海軍

①

大正三年九月廿二日發布

大正三年九月廿二日

次長

佐々木 長

沖田 長

首級件 九月廿二日 為房中二九〇〇号

似今更事 如日本海 戦後保存 存心へ 菅部

成り意 三月 六日 交渉中 有 立 案 案 成 了 事 業 事 業 事 業

加申 不

尾

大正三年九月廿二日

0367

奇

海軍

軍務局長

第一課長

佐藤

副員

小林

...

大正十三年一月廿五日

（発付付）

軍務局長

佐鎮参謀長宛

駈逐艇自雪松月野分及霞除務後ノ處分ニ関スル件

駈逐艇自雪松月野分及霞本年四月自附除務ノ豫定

ノ有之ニテ處右除務後ノ處分ニ関シ所見承知

改度

右照會ス

機密第三〇號

0368

re
11

軍務局

第一課

入止 二年二月十二日

古川 正世 保 鎮 守 附 謀 儀

小林 海軍省 車務局長 殿

驅逐 白雪、松風、野分 及 散除 籍後 處分ニ 關スル 件

車務 機密 第二〇 號 御照會ノ 本件ニ 對スル 意見 左記ノ 由

右 回答ス

追テ 舊須磨ヲ 潜水 母艇ト セラルル 御内意アルヤニ 承知 候條 所

要修理 費一 加紙 寫乙 號一 御参考 迄申 添候

左 記

第一案

機密 第三〇 號

0369

18. 2. 17

近世保防部隊附屬特務艇（掃海艇）トスルコト

理由並修理費加紙寫甲號及乙號ノ如シ

第二案

近世保海兵團教材ノ陸上掃海艇トスルコト

理由加紙寫丙號ノ如シ

加紙寫一括添

掃海艇トシテ掃海艇トシテ買入

(一)

士及四人、海軍及八人、左職備年額

下士及四人、兵五五人、五三、二二、四七〇

一、買入トシテ掃海艇トシテ買入ノ價値為トシテ買入

0370

寫

甲號

海軍

佐防機密第二四號

大正十二年一月五日

高橋佐世保防備隊司令

古川佐世保鎮守府參謀長殿

驅逐艦處分ニ關スル件

佐鎮機密第六六號ノ二御照會ノ白雪、松風、野分及蔽除籍後ノ

處分ニ關シ本隊ノ意見左ノ通

右回答ス

意見

各驅逐艦ヲ特務艇(掃海艇)ニ編入シ串港防備艦並ニ防備隊

教育訓練用トシテ之ヲ防備隊ニ附屬セシムルヲ可トス

佐鎮機密第六六號ノ六

0371

但シ各艦遂ニトモ少クモ十二節ノ速力ヲ出シ兩二年ハ有効ニ使
用シ得ルヲ要ス

理由

一、防備部隊ノ専務掃海艇ハ徵備船泊ノミヲ以テ充當シアルモ有
事ニ際シテ徵備船泊ノミニテハ最モ重要ナル開戦ノ初期一於
テ軍港ノ可航水道ノ安全ヲ期シ難キ虞アリ

之ヲ以テ少クモ若干ノ常備掃海艇ヲ防備隊ニ配屬シ置キ平時
ヨリ専ラ掃海ニ勵スル例ヲ訓練ヲナサシメ有事ニ際シテハ之
等特設掃海艇ノ骨幹タラシムルヲ要ス

二、(イ)平時防備隊ノ主任務タル極雷掃海訓練ノ爲メノ船艇ノ出動
回數ハ概ネ別表ノ如クニシテ之カ作業ニ従事スル防備隊附

屬船艇ハ僅カニ片島ト黒島ノ二隻アルノミニシテ兩者ノ訓練ヲ満足セシメ能ハサルノミナラス特ニ一號掃海ノ如キハ僅ニ單式掃海ノ訓練ニ止マリ戰時六隻編隊ノ掃海隊ニ對スル基礎訓練スラ行フ能ハサルハ誠ニ遺憾ノ次第トス

(ロ) 連年敷設艇ヲ酷使スル關係上自然防備隊唯一ノ特務艇タル敷設艇ノ衰朽ヲ早カラシムル處アリ

(一)

0373

大正十二年度西世保防備隊二等敷設艇使用豫定表

使用區分	豫定出動日數
各防備地點	一〇
現地作業	六六
敷設	七六
掃海	
記事	右豫定出動日數ハ片島、黒島ニ隻ノ延日數トス

0374



(乙 號)

佐廠機密第二九號ノ一四ノ二

入止十二年三月十日

佐世保海軍工廠長岡崎貞伍

佐世保鎮守府參謀長古川四郎殿

須磨(舊)及第廿九驅逐隊(舊)現狀調査ニ關スル件

客月十三日附近鎮機密第八七號ヲ以テ御照會ノ本件別紙ノ通

右回答ス

(別紙一葉添)

(終)

佐鎮機密第八七號ノ二

海 軍

0375

一、舊須磨ニ關スル件

(イ) 造船關係

須磨ヲ潜水艦母艦ニ改造スルトセハ其ノ工事費ハ艦裝方案決定セサレハ不明ナルモ差當リ艦室隔壁腐蝕等船体部修理及入渠費ニ約五九三〇〇圓ヲ要シ猶ホ端舟類ハ既ニ夫々處分濟ニシテ現在須磨ノガトシテハ一隻モ無ク且ツ他ニ適當ノ代舟モ無キヲ以テ従前ノ迪汽艇一隻(長サ廿七呎)ピンストス一隻(長サ二十呎)カッター二隻(長サ廿八呎)迪船三隻(二十呎一隻、廿七呎一隻、二十呎一隻)ヲ新規製作スルモノトシ(機關ヲ除ク)三三、二〇〇圓合計九一、五〇〇圓工事日數約四ヶ月ヲ以テ近海航海ニ差支ナキ程度ノ

修理完成ノ見込

(ロ) 機関関係

主機各運動部検査手入罐及主補復水器水壓試験罐本体修理
補機具ノ他ノ修理ヲ施行セス速力十二節迄ノ進轉ニハ差支
ナシ

右ニ所要ノ豫算

工 賃 六九六〇圓

材料賃 四九六〇圓

附屬賃 四一七二圓

合 計 一六〇九二圓

二、舊第一十九驅逐隊ニ關スル件

(イ) 追船關係

二十九驅逐隊（舊）ヲ掃海艇ニ改造スルトセハ其ノ費用及
船体並修理並ニ入渠費共一編ニ付キ四八五〇圓工事日數ニ
ケ月ニシテ相當使用シ得ル見込

(ロ) 追艦關係

主機補機共ノ他小修理罐管四罐方（各編ニツキ）衰朽甚々
シキモ使用目的ヨリ打算シ一罐分ノ罐管ノミ全部換裝（他
ハ現在ノ儘トス）スレハ兩二年間速力十一節迄ノ連轉ニハ
差支ナシ

右一隻分ニ對スル豫算

工費

一八〇〇圓

材料費	九〇〇〇圓
附屬費	三、七八〇圓
四隻分合計	五八、三二〇圓
以上何レモ試運轉費ヲ含有セス	
三、經費概算	
(一) 舊須磨	一〇七、五九二圓
(二) 舊第廿九驅逐隊	七、七二〇圓 (一隻一九四三〇圓)
(総)	

寫

(丙號)

佐海團機密第二七號

入止十二年二月六日

佐世保海兵團長入寺量吉

佐世保鎮守府參謀長古川四郎殿

驅逐艦除籍後ノ處分ニ關スル件

客月卅一日附佐海團機密第六六號ノ一ヲ以テ御照會ノ本件ハ目下
本團ニ備付ケアルモノハ「シーシヨウ」型三等水雷艇ニシテ教
材トシテハ最も舊式ニ屬スルニ付本團教材ノ陸上排置雛型トシ
テ一隻供給ヲ待度希望ニ有之候

右回答ス

(一)

佐海團機密第六六號ノ五

海軍

0380

軍務局

大正五年 四月 二十五

日 午後 六時 十五分 佐

局 著 局 發

第一課

發信者

佐世保鎮守府參謀長

受信者 軍務局長

電報譯

四月一日所除籍一白鷗逐艦自西子松岡野今
散ニ於ケル兵備品艦裝品等ノ處理上參シ
考トシテ前記各艦今後ノ處理分ニ對スル御
内意至急承知致シ度

0381

三ノ丸(三ノ丸)。

事務局長

第一課長

局長

海軍 機密半紙十三行算紙

大正十三年四月 日

軍一務局長

佐鎮参謀長

軍第一番電報

二番電報

電報

四月十日午後三時 分發

廢船艇ノ整理ニ目下調査中ニシテ白雪以下四隻ノ將
來軍需トシテ使用ノ意圖ナキニ處分案決定迄差
出ル略現状ノ保持ヲモテシメタル

白雪以下四隻ノ防備隊敷設艇トシテ予備力徴スルニ於
テ九万餘円ノ費ヲ要スルハ中止トナシモシテ

0382

軍第一八一號

軍務局

佐鎮第二二九號

大正十三年四月十二日

第一課

古川佐世保鎮守府參謀

小林海軍省軍務局長殿

舊軍艦須磨ニ關スル件

本件ニ關シテハ既ニ當府ニモ同様ノ請願提出致候處前以テ同職ニ就テ調査モ不致只慢然ト優先權ヲ得置カン位ノ考ニテ願書提出シタル模様見ヘ候間同村長ヲ招致シ一應取調ヘント考ヘ居候際軍第一八一號貴照會ニ接シ直ニ同村長ヲ招キ其ノ請願動機ヲ尋ネタルニ過般來新聞紙ニ沖島ヲ千圓ニテ拂下ヲ願ヒタル者アル旨記載サレシヲ見、自治團體ヨリ願出ツレハ無償拂下モ聞届

海軍

0383 18.4.15

ケラルルヤモ不知トノ考ヘニテ請願シタル次第ニテ要スルニ何等ノ威害モナク慢然普通ノ去役軍艦ノ状態ヨリ推シテ其ノ外觀ニ捉ハレ維持費等ニ就テハ些ノ考ヘモナキ次第ニテ如何ニ維持ノ困難ニテ費用ノ入ナル事等ヲ説明致候處能ク了解致自然無償借用ノ如キハ願ハサル旨返答致候間左様御承知被下度

右回答ス

追テ同村ハ貧窮ニシテ到底無償下附ノ場合ニ於テモ維持シ得ヘカラスルモノト認メ候

(終)

供覽

軍第一八一號

軍務局長	經理局	艦政本部	總務部長	第四部長	司令部
第一課長	第二課長	第三課長	第一課長	第一班	大正十三年四月七日
局員	小林				軍務局長
					佐鎮參謀長宛
					大正拾參年四月 七日發布濟
					旧軍艦須之居之問答件
					本件之問答日宇村長より別紙一通願出有之無修下 附ハ設講ノ餘地無之ニモ得共公益上之旨ヲ献スル所ト特ニ



横濱牛乳下



0385

多大十九之能... 無傍貸貸與トシ維持ニ由ルニ... 須磨ノ保存維持ニ相資技術上ノ知識ヲ要スルコト... 人自經其具ヲ要スルコト有之果シテ日守村トシテ... 十九能カリ有スルヤ否ヤ等ニ就付コト疑問ノ点有之コト... 右ノ旨ニ関スル詳細トシテ見承知致度
 右照會ル

是日守村云日守村^村改^改定^定之^之情^情ヲ具^具シ^シ助成^{助成}金^金ノ
 交付^{交付}ヲ請^請願^願シ^シ事^事ニ^ニ由^由ル^ルコト^{コト}アリ^{アリ}又^又該^該決^決議^議書^書ノ^ノ内^内容^容ヲ
 果^果シ^シテ^テ軍^軍艦^艦係^係屬^屬金^金借^借下^下附^附款^款出^出ノ^ノ真^真意^意ナ^ナル^ルコト^{コト}ヲ^ヲ不^不可^可疑^疑アリ^{アリ}



0386

日度昇六の二柳

一、須磨艦 廢艦無償拂下請願書

右廢艦後、於テ特別御詮議ヲ以テ無償御拂下被成下度別紙村會議決書ヲ具シ此段請願仕候也

大正拾參年三月二十日

長崎縣東彼杵郡日宇村長濱野洪基

海軍大臣村上格一殿

0387

日守村會議決書

一 軍艦須磨 壹艘 但繫船具共

理由

歐洲大戰ノ反動トシテ軍縮論ノ高唱トナリ華府會議ノ結
 果戰艦比率ノ制限トナリ人道平和ノ論ハ滿天下ノ青年ヲ
 駢ラ苟且偷安ノ陷レ過激ナル外未思想ハ三十年來涵養
 ト来レル武士道ヲ破壊シ世道地墜ヲ人心萎靡ノ實質
 剛健勤儉尚武ノ風歲月ト共衰へ義勇奉公ノ念將
 サ、地ヲ拂ハントス近時軍事方面ニ於ケル一般志望者ノ激減
 セルハ以テ其風潮ノ一般ヲ想察スルニ餘リアリ
 我日守村ハ佐世保鎮守府ノ隣接シ縣ノ中央ニ位シ陸上ノ交
 通ハ勿論海路ノ便亦四通八達ナリ日守驛ヨリ五六丁ヲ海
 濱ニ出ツレハ水深ノ波靜カシテ諸般ノ設備ヲ加フニ於テ天下

日守村史

ノ良港タル、遜色ナキ日宇灣ヲ有ス今廢艦ノ後須磨ノ無
償拂下ヲ出願ス趣旨、此日宇灣頭、碇繫シ炊事宿
泊ノ設備ヲ加ヘ圖書館ヲ置キ廣ク之ヲ開放シテ一般ノ
觀覽ニ供シ夏^中期、於テ臨海學校及青年團處女
團ノ修養講習會其他アラエル修養的團體ノ宿泊講
演會場等ニ充用シ專ラ海事思想ノ鼓吹ト涵養ト
資シ一面ニハ日宇灣ノ社會ニ紹介シテ日宇村前途ノ發展
ヲ圖リ又本村ノ教員住宅ニ充用シテ教員ノ優遇ト社會
化ノ努メントスルニアリ

右ノ趣旨ヨリ須磨廢艦ノ曉、於テ無償拂下ヲ其筋ニ請
願セリトス

大正拾參年三月拾六日原案可決

日宇
之印

0390

高秘第五八四五號

大正十三年三月二十四日

長崎縣知事 堀内秀太郎

郵政本部

海軍部

第四部

海軍部 第三課

第三課

森太郎

格 殿

具 13.4.2 沼

13.3.29 澤

4

13.4.4

13.4.28

13.8.28

郵務局

廢刊費償拂下該願之件

管下東彼持部日半林ニ於テハ本月十六日

林會ヲ用催シ頃者廢艦ヲ傳ヘラルノ須

艦(繫船具共)ノ拂下ヲ請願スルコトニ

決議シ引續キ準備中ノ模樣ニ存之候條

別紙該願書起草案添付

紙用箋附

0391

大正十三年三月二十四日 森太郎 格 殿

ハ十六日
ノトニ
候條

13.3.29

部

13.3.29

加受
三月廿九日

0391

紙用箋附

大正 年 月

13.4.2

海軍艦政本部總務部第二課

林下... 保存... 於... 考... 今... 於... 果... 相... 付

0392

右及甲報候也

0393

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

精願表

欧州大戦、及動トシテ軍縮論、高唱トナリ
華社會議ノ結果、歎艦比率ノ制限トナリ人
道平和論ノ満天下ノ青年ヲ取テ苟且偷安
ニ陥レ過激ナル妙策思想ハ三千年來涵養
シ来レル武士道ヲ破壞レ世道地ニ墜テ人心
萎靡シ質實剛健勤儉尚武ノ風、歳月ト共
ニ衰ハ義勇奉公ノ念、特ニ地ヲ耕ハントス
近時軍時方面ニ於ケル一般志望者激減セルヲ
以テ其風潮ノ一般ヲ想察スルニ餘ナリ
我日半柱ハ佐世保鎮米麻ニ隣接シ糖ノ中
央ニ位シ陸上ノ交通ハ勿論海路ノ復又四厘
發達セリ日半取リテ五方下ヲ海浜ニ出レハ

水襪々波靜カニレテ諸般ノ設備ヲ加下ルニ
於テハ天下ノ良港タルニ遜色ナキ日守津ヲ

不

實績

今廢艦須磨ノ拂下ヲ出願スル趣旨ハ此日守
津ニ是等ノ炊事宿泊ノ設備ヲ施シ圖致般
ヲ置キ護リ之ヲ解放シテ一般ノ觀覽ニ供シ
夏季ニ於ケル臨海學校及青年処女團ノ
修養講習會其他總五ル修養團體ノ宿
泊講習會会場等ニ充用シ寧ろ海軍思想
ノ鼓吹ト誦養ニ資シ一面ハ日守津ヲ社會ニ
紹介シテ日守林前途ノ發展ヲ圖リ又本村ノ
教員住宅ニ充用シテ教員ノ優遇ト社會教
化ニ努メタル事アリ

0395

佐鎮機要第一五五號

大正十三年四月十四日

栗田正世 佐鎮守府參謀

小林海軍省軍務局々員殿

舊須磨處分ニ關スル件

舊須磨ハ本年四月廢置處分ニ附セラルル御内意ノ趣ニテ之カ保
管ノ爲十二年四月内令第百五十二號ニ依リ當港務部ニ臨時増置
ヲ置カレタルモノト承知致居候處今後猶現狀ノ儘殘置セララル
ニ就テハ兵器其他ノ保存手入上若干ノ兵員ヲ要スル儀ニ有之候
條何カノ御方針決定次第至急御内報煩度

右照會ス

海軍省一八六號

0396

追テ目下差當リ臨時使役ヲ以テ保存手入ニ從事セシメ居候條
爲念申添候

海軍

(終)

0397

第一課長



局長

付

大正十三年四月二十五日(終符)

中村局員

西村田佐鎮參謀長

旧須磨石炭多額案件

本件一、関し佐鎮極密第一五〇三ヲ以テ帰照會ノ趣
 了原旧須磨石炭利用、新ニ先般中野府長意見ノ次
 第ニ有之テ、石炭多額、経費ヲ需ムル關係上ニ大施困難
 ナル現況、有之目下、廢船艇及豫備艇ノ整理ニ付、調査
 中ニシテ、石炭額、経費ヲ以テ、是處石炭利用ノ途ニテ、限リ須
 磨石炭ニ追テ、追出時期、拂下セラルニ非カヤト被爲料云
 右圖ニ示ス

機密第一八六號ノ二

0398

大正十三年三月廿六日起案
起案者 捺印

() 軍務局長 第一課長

大臣

次官

副官

參事

總務部長

第四部長

經理局

建築局長

鐵道本部長

第三班

局長

第三課長

第二課長

第三課長

第二課長

局員

大正十三年三月

横鎮第一八五號ノ二上申津輕處分ニ戻スル

件 認心計ス

追々沈没ノ上ノ工作物トシテ整理スル様ト心算ス

官房第XノR第X

日發付 捺印
13.4.10
12
13.4.10
13.4.1
13.4.9

軍務	官房	局部	軍務	人里	監政	監務	醫務	經理	法務	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令

0399

備考

本件、関野之目録：横須賀市より押下り受ケ度旨申出アリ、津野

ヲ競賣處に附コト、ナリタル處、経費ノ関係上、市ヨリ鎮守府ニ協議

ノ結果、本上申ノ如ク、悔軍ニ於テ所費ノ位置ニ、沈思シ、邊ニ市ニ於

テ附設堤ノ一部トシテ利用スル内意ナリ

鎮守府ニ於テハ五月二十七日、記念日ニ、甚ク場破作業等ヲモ、沈思

スル旨、御向ニシテ位置ノ関係上、甚ク場破作業等ヲモ、沈思シ、邊ニ市ニ於

軍港將來施設之對シテハ支障
 無ク見込
 但シ航路標識トシテハ要否、位
 置、維持等諸事ニ付テハ別ニ研
 究ヲ要スルコト
 一三三三三五
 (前田)

0401

軍

内
三
郎

郵務局機受

18. 丙 日

就テハ此際之ヲ本

致度

終

0402

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

海軍
第一八〇號

大正十三年三月十八日

海軍大臣 村上 格 一 殿
横須賀鎮守府司令長官 堀内 三 郎

津輕處分ニ關スル件

軍艦津輕ハ將來軍事上ニ使用ノ御意向無之旨及聞候ニ就テハ此際之ヲ本
府ニ於テ左記位置ニ沈置シ航路標識ニ使用スルコトニ致度
右上申ス

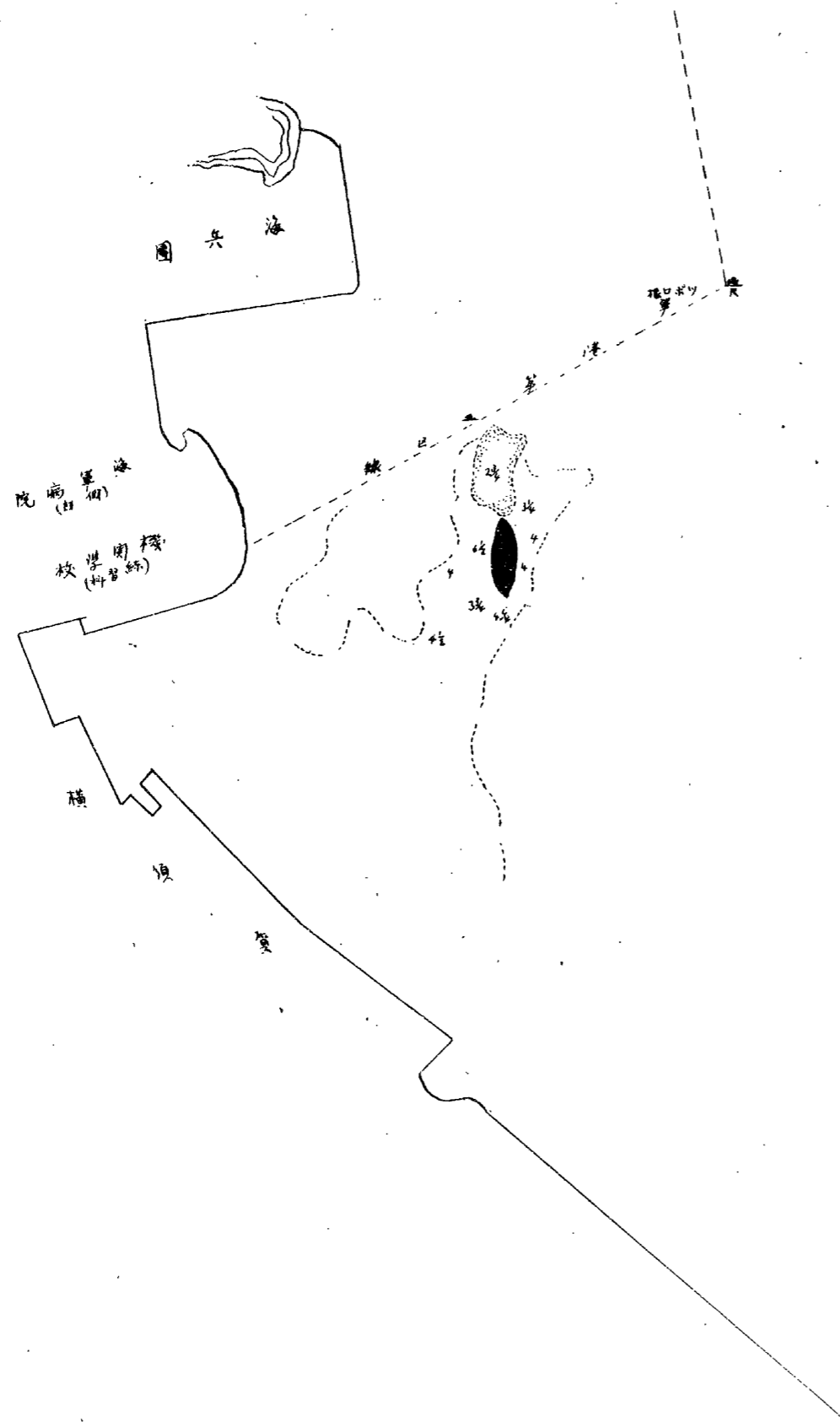
左記

位置ハ附圖ニ示ス

終

官房第XノY號

0402



水路軍械第三廠全圖

● 水路軍械第三廠

0403

